

薬剤名 <b>ABC-123</b> 剤型 <b>水和</b>	試験機関 <b>ホールインワンカントリークラブ</b>
有効成分 <b>XXX 10%</b>	担当者名 <b>植調 太郎</b>
及び含有率	試験圃場名 <b>場内圃場</b>
ロット番号 <b>XYZ1234</b>	圃場所在地 <b>〇〇県〇〇市●●</b>

## I. 試験概要

- 対象樹種：品種・樹齢
  - ① コノテガシワ：植付後5年、約8年生
  - ② サツキ・ツツジ類：クマツツジ：10年生
  - ③ アベリア：前年11月定植、約5年生
  - ④ カナメモチ： " "
  - ⑤ イヌツゲ： " "
- 耕種概要・管理条件
  - ① 植栽様式および供試本数：  
列植：2年生苗 5本/区
  - ② 主な管理：  
年2回刈込み、その他は慣行

3. 処理前後の気象状況（処理日を○印、灌水を△印） ○：快晴 ①：晴 ◎：曇 ●：雨 ⊕：雪

月日	4/16	17	18	19	20	○A区 21	22	23	24	25	26	○B区 27	28	29	30	5/1
最高気温(°C)	16.4	20.2	26.1	19.9	20.5	22.4	16.7	14.4	25.8	30.0	24.2	24.4	19.2	15.6	16.7	20.2
最低気温(°C)	11.5	14.4	19.0	10.8	11.9	16.4	15.2	11.9	20.6	22.3	20.0	15.2	14.1	13.3	12.9	12.9
降水量(mm)			17						6		10					
天候	①	◎	●	◎	①	○	○	①	◎●	◎	●	◎	◎	①	○	◎

4. 試験設計

A区：茎葉処理(基準の高薬量)： 0.5 g・ml/m<sup>2</sup><水量 150 ml/m<sup>2</sup>> 4月21日処理

B区：土壌処理(高薬量の2倍量)： 1.0 g・ml/m<sup>2</sup><水量 250 ml/m<sup>2</sup>> 4月27日処理

C区：B区に於いて薬害が発生した場合は、基準の高薬量で再試験を実施

0.5 g 5月25日処理

## II. 試験結果(薬害程度については、野菜・花き除草剤試験実施基準に準ずる)

供試樹種	処理区	薬害程度	薬害症状	コメント(薬害の回復状況等)	土質
コノテガシワ	A区	0	—	新梢の伸びは正常 回復は早い(20日程度)	火山灰 砂壤土
ツツジ		0	—		
アベリア		2	黄化・落葉		
カナメモチ		0	—		
イヌツゲ		1	新葉の退色		
コノテガシワ	B区	0	—		
ツツジ		1	新葉萎縮		
アベリア		0	—		
カナメモチ		0	—		
イヌツゲ		0	—		
ツツジ	C区	0	—		

## III. 普及における緒言(実用上の有効性、問題点、その他提案等)

茎葉処理でアベリアに特異的に薬害生じるためアベリア植栽地での使用には注意を要する。

ツツジに対し2倍量の土壌処理でわずかに影響あるが通常使用量では実用上問題ないと考えられる。